

産業建設委員会

※写真撮影のためマスクを外しています



産業建設委員会では、本年度の所管事務調査事項として、「市内経済の活性化に向けた取り組みについて」、「次世代公共交通システムについて」を選定し、調査研究を行いました。その中から、「次世代公共交通システムについて」の調査過程を詳しくお伝えします。

次世代公共交通システムについて

【選定した理由】

人口減少や超高齢社会が確実に迫り来る中、これまで市民の足として支えてきた地域の公共交通事業は、今、さまざまな課題を抱え、その持つ意味、役割も大きく変わろうとしています。加えて最先端の技術や情報通信技術を駆使し、安全で経済的かつ効率的で環境にやさしい交通システムへの取り組みも始まっています。

このような視点の中、次世代を見据え、市民に、高齢者に、そして環境に優しい、交通サービスの在り方を主眼に、次世代公共交通システムを所管事務調査事項に選定しました。

【本市の現状】

本市では、多様なニーズに対応し、全ての人が移動しやすい総合的な交通ネットワークの構築を図ることを、総合計画2023後期基本計画のミッションとしています。また、地域公共交通の役割を整理し、まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの形成や再構築、地域における輸送資源の活用など本市の公共交通の在り方を明らかにし、その実現に向けた施策や方針を示した鈴鹿市地域公共交通計画を令和3年度末に策定する予定となっています。

本市のC-BUSの現状については、西部地域の庄内・神戸線および椿・平田線、南部地域の白子・平田線および太陽の街・平田線について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けたことによる利用者数の減少に伴い、収支率が悪化している状況ではありますが、以前の利用状況に徐々に戻りつつあるため、新型コロナウイルス感染症の影響も鑑みながら、運行を行っています。

現在、少子高齢化社会を見据えた、次の世代の人たちが利用しやすい新しい交通システムとして、公共交通空白地域であり、高齢者が多い一ノ宮地区において令和3年1月から乗合ワゴン実証実験が、地域住民の方が主体となってスタートしています。開始から数カ月が経過し、改善すべき項目も出てきており、一ノ宮地域づくり協議会では、改善に向けたアンケート調査を実施して、持続可能な交通手法を模索しています。

【視察の実施】

令和3年8月には一ノ宮地域づくり協議会の乗合ワゴン実証実験の現地視察を、9月には国土交通省中部運輸局三重運輸支局とのオンライン視察を行いました。

一ノ宮地域づくり協議会では、市内の公共交通空白地域における移動手段の確保などの課題に対し、地域が主体となって運行する交通システムの導入・検討に向けた実証実験に取り組んでいます。一ノ宮地区は地区内のバス路線が平成30年3月末日に廃止になったこと、公共交通空白地域



一ノ宮地域づくり協議会への現地視察